

私と考古学

愛南町文化財保護審議委員 多田 仁^{じん}さん



◀ 東外海監視哨の現地調査の様子（上）
福浦監視哨で採集した茶碗（下）

“歴史を振り返り、豊かさの根拠を知る”

幼い頃、祖父に連れられて遺跡を訪れたことや近隣の弥生遺跡に触れていたことをきっかけに考古学の道へ進み、2万年前の石器について研究を行っていた多田^{じん}さん。開発によって埋もれた遺跡が失われないよう発掘調査を行う傍ら、愛南町史編さん委員として研究や執筆作業も行いました。令和2年に愛南町へ移住し、現在は農業に尽力しつつ、戦争遺跡についての調査や学術誌への投稿を行っています。

「戦争を研究している人たちも知らない埋もれた歴史や、忘れ去られていく歴史を何とかしたい」と話す多田さんは、敵の飛行機を見張る監視哨を自らの足で回り、福浦監視哨で使用されていた茶碗や瓶を発見しました。また、戦争遺跡に関連する人物や新聞記事なども調査しており、遺物の採集結果を研究会などで報告しています。

「自身にとっての考古学とは歴史を振り返り、豊かさの根拠を知るための学問である」と話す多田さん。「なぜ現代社会が豊かなのか、なぜ諸外国と現在のような付き合い方をしているのか、戦争遺跡を通じて現代社会の成り立ちや豊かさの根拠を皆さんと一緒に考えていきたい」と今後も町の歴史を体系づけ、戦争遺跡の周知を図ることを目標としています。

編集後記

「今月の笑顔」の撮影時は、できるだけ多くの子が笑顔で写るように先生方と一緒に色々な声掛けをしながら撮影します。同じ姿勢で笑顔を継続するというのは子どもたちにとって容易ではなく、集中力切れや緊張などで笑顔を捉えられないことも多々あります。

悔しさに駆られながら去ろうとすると、「また来てね～」と手を振ってくれるのですが…悔しいことにみんなこの時が一番の笑顔なのです。〇

私は小さい頃から甲斐バンドの曲ばかり聞いています。昭和リリースの曲なのに、今聴くとコロナ禍を生きた私たちへのエールソングのように感じる事があります。

8月号の編集が終盤に差し掛かった日、県内の感染者は1,000人超え。コロナが無ければもっと色々な事が取材できるのにと、こぶしを握りしめる日々が続いています。

私もどんどん発掘調査していきたいです。愛南町の魅力を。 M

編集・発行

愛南町役場 総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

